

春! ふれあいの

見沼田圃



▲さいたま市と市民による団体「見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク」では、毎年見沼田圃の写真コンクールを開催しています。その応募作品より、①浦和くらしの博物館民家園のハス、②見沼自然公園のシラサギ、③総持院前での田植え体験、④圓蔵院のシダレザクラ。

自然とふれあう

イベントで見沼田圃の自然に親しもう

見沼田圃に親しんでもらうため、一年を通してさまざまな催しが開催されています。そのひとつ、見沼区の「ふるさと発見てくてく見沼」は、歩きながら見沼田圃の自然や歴史を学べるイベント。田圃や寺社などテーマに沿って設定さ



▲昨秋に行われた「第8回ふるさと発見てくてく見沼」の様子。詳しくは、見沼区コミュニティ課へ。



▲「クサギの実が染料になります」。知識豊富なガイドさんが、植物や鳥などについて教えてくれます。

首都圏最大級の緑地空間!



れたコースを、NPO法人自然観察さいたまフレンズの皆さんの案内でめぐります。自分たちだけで散策するより新しい発見が多く、「見沼田圃への愛着が深まる」と好評です。また、GWには、市民の森で「花と緑の祭典」、大崎公園周辺で「アグリフェスタ」などが開かれます。イベント情報は、市報や「見沼たんぼのホームページ」(下記)などに掲載されます。

農とふれあう

農業体験で見沼田圃のこれからを考える



▲家族連れの参加も多い農業体験。収穫祭などお楽しみもあります。

見沼田圃では、市民団体による保全活動も盛んです。多くの団体が、河川や動植物の調査、雑木林の保全、ホタルの保存など、さまざまな活動を行っています。田植えなど農業体験を行っている団体もあるの

で、参加して楽しみながら見沼田圃のこれからについて考えてみませんか。

春の見沼田圃は、いくつもの公園をはじめ、見沼代用水東縁、西縁などいたるところが桜で彩られます。さらに菜の花や野草なども咲き、色とりどり。そんな美しい季節を迎える見沼田圃を散策し、自然や歴史にふれてみませんか?

▲桜並木が咲き誇り、ピンクの帯状に彩られる見沼代用水東縁(見沼区膝子)。

見沼田圃を活用しながら保全する取り組みがスタート

さいたま市の中央部に広がる見沼田圃は、元は江戸時代に灌漑用水用の溜井として誕生しました。今でも台風のとくに水を貯め、洪水を予防する役割を担っています。その面積約1260haは、大宮区に匹敵する広さ。東京から20〜30km圏という地域で、これだけ広大な緑地は貴重な存在です。縄文時代の遺跡など、歴史や文化遺産も伝わります。見沼田圃を守るため、従来より国や自治体が保全政策を進めてきましたが、農地の減少など環境が悪化。そのためさいたま市では、平成23年1月に「さいたま市見沼田圃基本計画」を策定し、見沼田圃を市民に知ってもらう、身近に感じてもらうよう、取り組みを始めています。

歴史とふれあう

さいたま市立浦和博物館では見沼田圃の歴史資料を展示

見沼田圃の歴史を知るためのおすすめスポット。江戸時代に造られた閘門式運河で、国指定史跡の見沼通船堀の模型、当時船で実際に使われていた道具、資料などが展示されています。馬場小室山遺跡から出土し、大英博物館に貸し出された話題になった、人面画土器も見ることができます。

また毎月第3日曜日は、「三室地区定例探鳥会」を開催しています。事前申し込みは不要。野鳥の会埼玉の会員が、鳥の名前や生態などを解説してくれます。



▲見沼通船堀の仕組みがわかる模型も展示されています。



▲日常使いの器で、人面つきのものは珍しいことから注目された「人面画土器」。



▲明治時代の洋風建築を復元した建物も見ものです。

■問合せ さいたま市立浦和博物館 ☎874-3960

問合せ

もっと知りたくなったら!



さいたま市では、市民と協力し「見沼たんぼのホームページ」を運営しています。見沼田圃の基礎知識、イベント情報や保全活動を行っている市民団体の紹介など盛りだくさん。見沼田圃のことをもっと知りたくなったら、ぜひアクセス!
<http://www.minumatanbo-saitama.jp/>
また、おすすめの散策コースや見どころを掲載した、コースマップつきの「見沼田圃の散歩みちガイド」を年数回発行しています。見沼田圃散策にお役立てください。

■見沼田圃基本計画について
都市計画部 みどり推進課
☎829-1413